

すそみろく

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました

第18号 (平成23年1月1日)

発行・すそみろく編集委員会

TEL029-866-1122 (田井の里地域づくり愛好会・森田)
TEL029-863-5151 (NPO 法人つくば環境フォーラム・田中)



謹賀新年
皆様の「ご繁栄を」祈念
申し上げます
筑波山神社宮司 田中泰一
029-8666-0502

霊峰筑波山より
世界平和を
祈念致します
筑波山大御堂
029-8666-0126

温かな心をもった
温かな田井地区
感謝です

田井小学校校長 細川真郷

田井地区の皆様のお
おし合せを祈ります

井坂敦實(北条)

水源地

水つくりは
森づくり

齋藤靖夫(筑波)

神郡区長 飯田 忠

六所区長 森田源美

館区長 櫻井 登

漆所区長 杉田進一

小沢区長 沼尻光昭

明けまして
おめでとう
ございます



絵：御手洗竹松(六所地区)

立野区長 鮎川 清

杉ノ木区長 沼尻直次

白井区長 鮎川 洋

大貫区長 糸賀 昇

すそみの田井で
観峯虚心

神郡山房主人(神郡)

迎春

鮎川隆雄(白井)

自然豊かな筑波山麓で、
谷津田の米づくり、里山
の森づくり、
ぜひ、「二緒に！」
NPO 法人つくば環境フォーラム

すそみは
常陸の国の宝です

飯田猷子(館)

新年おめでとう

「ご」います

安藤邦廣
里山建築研究所

橘の下吹く風の香くわしき
筑波の山を恋いずあらめやも
(万葉集)
上野節子(小沢)

純米酒「つくば道」発売元

肥田酒店(神郡)

大地に生きる
共に生きる

田楽舞☆米☆野菜☆ヒマワリ油
NPO 法人 自然生クラブ
029-8666-2192

あけまして

おめでとう「ご」います

櫻井菓子店(神郡)

謹賀新年
お餅にあきたらエスニック
多国籍創作料理の店
塩梅(あんばい)
029-8667-11480
(予約制)

今年もすそみの木で
おいしいスモークチーズ
つくります！
(株)中野
029-8664-4546

謹賀新年

鮮魚・仕出し
なばや商店(神郡)

029-8667-0329

新年おめでとう「ご」います
今年も筑波山麓の自然を
楽しみたいと思います
楽しみましょう
すそみろくサポーター

お山があるから
人生おもしろい!!
(有)結エディット
029-8669-15550

迎春

乗馬クラブ
(株)ツクバハーベストガーデン
029-8667-0783

「つくばスタイル」として
すそみでの暮らしを
楽しませよう

今年も「すそみ」が元気に
なるような話題を探して
発信します。
どうぞよろしく!!
すそみろく編集委員会同

年の始めに「山のくらし」あれこれ



筑波山の恵みに守られてきた「すそみ」のくらし。古くから山で生活してきた、立野にお住まいの皆川松男さんを訪ねました。



地図を囲んで話が盛り上がりました

松男さんは昭和7年のお生まれで、昭和16年に大東亜戦争でお父様を亡くされてから、山師をしていたおじいさんに連れられて子供頃の頃から山仕事を手伝っていたそうです。そのため山の名前や持ち主を自然と覚えたとのこと。今では持ち主でさえ自分の土地の境界が分からず、松男さんに聞きにくるほどだとか。「いやあ、きびしいなんてもんじゃないよ」

おじいさんのことを振り返り、何度もう繰り返されています。松男さんの家は農家で、冬は木を伐り薪づくりや炭焼きをしています。当時農家では山の草をとり、牛馬のえさや肥料にしていたので草と「草を刈ってきねえと昼はない」と

言われたよ。冬の間は燃料にする枝をとり、ムラヤマやつつじヶ丘あたりまで馬を引いて行って、馬の背の両側に3把ずつ、6把つけて帰ってきたんだ。6把とって一人前と言われたよ」

冬は炭にするため、キリブ(木を伐る人)に頼んで伐った薪をとりに行くのも松男さんの仕事でした。

「13、14歳の頃から一人で牛を押したよ、牛は大きいから8把つけるんだ。『ドンデラ(白滝の下)まで行って、炭にする薪をつけて』と言われてようやく帰ってきたら、また雪がさんさんと降る中、2往復でも3往復でも行かされたよ。ひどかったなや。六所のまわりはほとんどクヌギ山で、ゴルフ場の辺りは松山だったな。昔この辺はクヌギ山と松山ばかりだったんだ。今みたいに山桜なんてほとんどなかったよ」

炭焼きの材料は主にクヌギで、秋から田植え頃まで焼いていたとのこと。屋敷の敷地内に半球型が特徴の茨城窯と呼ばれる、内部の直径が6尺、高さ3尺、外周に厚さ1尺ほどの土を突き固めてつくった炭窯が3つ並んでいたそうです。中に長さ尺8寸の薪を立てて詰め、上の空洞にはナギ(小枝)を横に入れ、一段低い

火口に火を付け一昼夜半、反対側の煙突から出る煙の色と匂いで炭のでき上がりが分かるとか。1俵は4貫目(約15キロ)。一窯で炭が20俵できたり、1俵200〜300円、終わりは500円くらいで売れたとか。「出来た炭を5〜7俵木車輪のリヤカーにつけて、でこぼこ道を北条まで運んだんだ。配達先が分からなくて苦労したな」

質の良い山麓の炭は、東京の料亭からも注文があったのだとか。松男さんの家では昭和38年頃まで炭焼きをしていたそうです。「本当に貧乏だったよ、まあお話のようだよな、今から思えば…。でも戦後物のない時代に米と木だけはいやあきびしいじいさまに育てられた。今思えば一人前にしてもらったから良かったかなと思うよ」

ふと横にいた奥様を振り返り「この人が来てくれたから家が建ったんだ」と笑う松男さん。折りしも取材前日はいい夫婦の日、ごちそうさまでした！本年も山とともに「すそみろく」をよろしくお願います。松本真朋(里山建築研究所)

皆川さんご夫妻の笑顔が素敵でした

「10筑波山麓秋祭り」を終えて



●盛況だった神郡地区

「筑波山麓秋祭り」(神郡地区)が、小春日和に恵まれた11月6、7日の両日、石倉RIZのつくば道沿いで開催されました。

神郡地区の7つのイベントの他、自然生クラブ、里山建築研究所なども参加しにぎやかなものとなりました。武井和美さん宅の離れ家では、お茶のお師匠さんが10人の門下生とともに心のこもったおもてなしをしてくださり大変好評でした。



石倉RIZ前のにぎわい

石倉RIZでは、農産物の直売、焼きたてのお芋やおせんべい、釜ど炊き「神郡米おにぎり」などの販売が行われました。おにぎりは当初準備した30キロのお米では足りず追加するほどの売れ行きでした。おにぎり作りに参加して下さったボランティアのお母さん方も、うれしいやら忙しいやら。おにぎり目当てのリピーターも多く、石倉から正面に筑波山を眺めながら食べるおにぎりの味は格別だったことでしょう。

今年の「秋祭り」は予想以上に盛

況でした。これもひとえに、ボランティア、地区役員の皆さん方のご協力があったことでした。来年以降、この催しがますます盛り上がりつついくことを念じたいと思います。

桜井勝成(神郡地区)

●普門寺を照らした瓦灯り

場所を神郡街道より慈眼山三光院普門寺の参道に移して2年目。今年も瓦の灯りプロムナードが行われました。

仏教の行事でも万灯会なるものがあり、沢山のろうそく等を並べて仏様に「ご供養致します。ろうそくの炎は仏様の智慧の光の象徴であり我々の迷いに満ちた暗闇を明るく照らし導いて下さいませ。」

瓦の灯りも万灯会さながら、田井小学校の子どもたち、そして地元の人々を中心に制作された瓦の灯りは、子どもたちの未来、そして地元の未来を明るく照らしているようでした。

遮那宥誠(神郡地区)



普門寺参道を幻想的に照らしました

すそみに被爆柿の木が やって来た

11月3日、12月5・6日、ゴリ道の森に柿の木が植えられました。

この木は、長崎に原子爆弾が投下された時に生き残った柿の木の子孫です。多くの生命が奪われたその時のすべてを知っている柿の木です。



植樹を終えて記念撮影

この木を贈って下さったのは、宮崎市在住「自然薬校・未来舟」校長の角川貴信さん。柿の木を見てくれる未来人、そして多くの生命ある仲間たちが何かを感じてゆつくり前進してほしい」という角川さん。その思いがすそみに伝わっていくことを願います。

小沢陽子(漆所地区)

「折形展」に10000人!

館地区に住む飯田猷子さんが企画した「贈る心を和紙で包む・折形展」が、11月13・14日、カスミつくばセンターで開催された。折形に興味を持った人たちおよそ10000人が訪



「曼珠沙華」の華麗な舞



「土鼓い」の勇壮な和太鼓演奏

●六所癒しの森 秋芸能祭

11月3日、集落総出で朝早くから準備を行い、薄暗くなる午後4時より開演した。

第一部では、青木社中の雅楽「四方払いの舞」などが演じられた。雅楽を初めて観る人も多く、「これが日本の原点」「多くの子供たちに観てもらいたい」と声が上がった。

第二部では、「土鼓い」の男女12名が勇壮な和太鼓を打ち鳴らし、その音は神郡まで響き渡った。

第三部は、多忙な海外公演の合間に駆け付けくれた国際文化交流劇団「曼珠沙華」が、美しい日本舞踊を披露し、狐やひよつとこの面であ変わりする踊りでは観客を笑いの渦に巻き込んだ。真つ暗になった会場の六所大神宮跡境内に、突然、口から火を噴く6頭の大蛇が現れ、うねり舞う「八岐大蛇」の迫力に、120名の観客は息をのんだ。

森田源美(六所地区)

れてにぎわった。会場には伝統的な折形をはじめ、節句や季節の行事を取り入れた折形約300点が美しく折り包まれていた。



多くの人でにぎわう会場

「相手を思いやる美しい心を包み込む折形を通して和の文化、和の心を感じてほしい」という飯田さんの願いは多くの人に伝わったにちがいない。

筑波山に魅せられて



作品の前の御手洗さん

11月20〜28日まで、六所地区在住の画家御手洗竹松さんがつくし美術館で「風景を中心とした作品展」を開いた。

筑波山に魅せられ、筑波山を描くことがライフワークになって20余年。今回の個展では22点が展示されたがいきいきとした色彩の絵の他に、鉛筆画の静かな表現も新たな世界を感じさせてくれるものだった。

4月には、筑波銀行本部ビル2階のギャラリーでも展覧会開催の予定(下記インフォメーション参照)

小沢陽子(漆所地区)

●すみれの花咲く臼井「つくば道」へ
いよいよつくば道の花も冬の装いになりました。

「つくば道・花の会」では地域の人々と共に11月13日パンジーに植替えました。道沿いには「ウェルカムつくば」と「うすい」「フラワーロード」の花文字、臼井の入口には大谷石で新しい花壇もでき、道行く人々の目を楽しませてくれます。春まで次々と花が咲いてくれることでしょう。

会の代表鮭川和行さんは「つくば道をもっと花いっぱいになりたい」という熱い思いで、花を植える場所の提供協力を求めています。万葉集にゆかりの深い「すそみの里」を花でうめませんか。

花のお世話をする花守隊も大募集中です!

石井博子(神郡地区)



地区の方々みんなでがんばって植えました!

●筑波山大御堂

世界平和を祈念して皆様も鐘をついてください。

12月31日(金)21時から除夜の鐘
1月1日(祝) 晨朝護摩

1月18日(火)初観音ご縁日。ご来寺になつて世界平和を祈念しましょう。

●筑波山神社

1月1日(祝)〜3日(月)初参りの皆様に甘酒のサービスがあります。その日の予定数がなくなり次第終了します。

●飯名神社例祭

2月7日(月)皆様のご多幸を願い福来餅を5回撒きます。(10・11・12・13・14時)

●筑波山麓・霞ヶ浦水源の森づくり

①1月8日(土)雑木林の手入れ(侵入した竹の伐採)②2月5日(土)雑木林の手入れ(間伐と薪作り)③3月12日(土)耕作放棄地への植樹・椎茸植菌講習会/いづれの回もつくば市神郡「すそみの森」集合参加申込者に地図送付/10〜15時。「親子で森林体験」プログラムも同時開催。④②参加費700円(温かい汁物・茶菓つき)⑤900円(昼食つき)この回のみ、つくば駅より送迎バスあり

「申・問」NPO法人つくば環境フォーラム

029-86315151

●御手洗竹松個展

4月11日(月)〜22日(金)9〜15時
筑波銀行本部ビル2Fギャラリーにて

「問」090-996213472



絵: 木村伽奈美 (田井小学校5年)



ワルターさん(上段左から2人目)と自然生クラブのみなさん

ワルター・アウアーさん 自然生クラブを訪問

10月31日北条の「宮清大蔵の音楽祭」で聴衆を感動の渦に包んだウィーン・フィル首席フルート奏者ワルター・アウアーさんが前日、神郡の田井ミュージアムを訪れ、自然生クラブのメンバーと友好を深めました。田楽舞を楽しみ、しの笛を吹くなどして、日本の里の秋を満喫した様子。勿論、カフェ・ソレイユのデザイナーも「美味しい、美味しい」と絶賛。クラブ員、藤森理蔵さんの描いた絵画に「エネルギーを感じる」と大変感動して、数点を求められたそうです。世界的に有名なワルターさんの訪問は自然生クラブに新たな活躍の場を開いてくれました。8月にはワルターさん、バイオリニスト若林暢さん、自然生クラブ等の共演が計画されているそうです。期待が膨らみます。

石井博子(神郡地区)